

I. 薬局・医療機関関連

I. 医薬品出荷量増減見込み

医療用医薬品の限定出荷や供給停止の解消につなげるために日本製薬団体連合会が実施している医薬品の供給状況に関する調査に関して、**出荷量の増減の見込みやその達成時期の見込み**に関する項目を追加する案を有識者会議において提案し、おおむね了承された。これにより、供給状況に関する見通しが立てやすくなり、対応方法の幅も広がることが期待される。

II. 病院の在院患者数コロナ前下回る

厚生労働省発表の病院報告によると、2024年7月の在院患者数は113万8772人で、前月からは増加したものの、**コロナ禍前の2019年7月と比較すると7.6%減少**している。コロナ禍もあり、また現在も回復途中であるため実体が完全に見えているわけではないが、この5年の間に診療報酬改定他、様々な施策の影響もあり在院患者数は減少している可能性がある。

III. かかりつけ医機能結果報告は26年度

2025年4月から始まるかかりつけ医機能の報告制度について、各都道府県は医療機関側からの報告の結果を**2026年夏ごろから順次公表**していく予定である。また、報告内容に基づき地域の関係者と協議を進めていくことになっているが、こちらは2026年度中に行う方針となっている。日本全体として

は団塊の世代が後期高齢者となり、医療ニーズがピークとなる時期ではあるが、都市部と地方では人口動態も異なるため、それぞれの地域の特性に合わせた対応が求められる。

IV. 開業医引退で無医地区 265 か所の可能性

厚生省は診療所の医師が75歳で引退して事業承継がなされない場合、**2040年に最大で265か所の市町村で診療所がない状態**となるとの調査結果を発表した。2022年時点で診療所がない市町村は77か所であり、3倍以上に拡大する可能性がある。この数字は診療所がゼロになる市町村の数であり、これ以上に多くの診療所が全国各地で減少していくことが予想される。

V. 看護師向け特定行為研修拡充を

高齢者人口が減少し医療ニーズが縮小すると予想される2040年ごろの**新たな地域医療構想の議論を行う検討会が10月17日に開催**された。その中で全老健側からすべての大学病院で看護師向け特定行為の研修実施機能を整備すべきとの意見が出された。医師からのタスクシフトの受け皿としての看護師を増やしたい考えだ。2040年以降となると他人事ではなく、医師よりはるかに多い看護師のリソースを活用して、地域でのきめ細かな医療提供が実現されることを期待したい。

II. 行政・技術関連情報

I. 臓器移植、優先ルールを変更へ

厚労省は脳死した患者から提供された臓器の移植対象者の選定ルールに関して、**命の危険がせまり緊急性が高い患者を優先するルールの拡大**を検討している。現在このルールで運用されているのは肝臓のみであるが、敗と心臓も対象の臓器に加える考えだ。これにより、臓器移植を待つうちに亡くなる患者を減らすことが目的である。厚生科学審議会の臓器移植委員会で議論を進めていく。

II. 不妊症検査など輸出へ

大阪大学が開発した検査技術で、不妊や妊娠後に流産する不育などの原因とされるネオセルフ抗体に関する検査で採血だけで実施できるものがあるが、この技術を住友商事が海外に輸出する考えだ。具体的には国内の医療機関と提携して検査技術を導入し、海外から送られてくる採血後の検体の検査を行っていく。少子高齢化の問題を抱える先進国で不妊治療に対するニーズは拡大するものと見ている。

III. ブタ腎臓移植を計画 慈恵

東京慈恵会医科大学などのグループは**重い腎臓病の胎児にブタの腎臓を移植する手術**の計画書を学内の審査に提出した。学内の審査が終了したのち、**25年度内に国に対し手術の実施を申請したい**考えである。対象となるのは生まれる前から腎臓が機能せず

尿が作れないポッター症候群の胎児2人で、国内では前例のない異種間の移植となる。移植した腎臓は人工透析などが出来るようになった段階で取り除く予定だ。

IV. コロナワクチン、高齢者接種を強く推奨

日本感染症学会など3学会は今冬の新型コロナウイルス感染症流行に備えて、**高齢者に対するワクチン接種を強く推奨する見解**を公表した。また、一部で話題になっている mRNA ワクチンを改良したレプリコンワクチン接種者が周囲に伝播させる「シェディング」と呼ばれる現象が懸念されていることに対して、「リスクはない」と明確に否定した。

V. 配偶者が心不全など発症で認知症リスク増

京都大学などの研究チームは、配偶者が脳卒中や心不全、心筋梗塞を発症すると**パートナーが認知症を発症するリスクが3割高まる**という研究結果を発表した。およそ9万人分の診療報酬明細書(レセプト)から年齢や性別、所得水準が同じような世帯で、配偶者が発症している世帯の世帯主と、配偶者が発症していない世帯の世帯主の認知症罹患率を比較した。世帯主の96%は男性であり男性に偏った結果となっている。

III. 企業関連情報

I. イフェクサー、GADの適応追加申請へ
ヴィアトリス製薬は、抗うつ剤「イフェクサーSR」に関して、**全般不安症/全般性不安障害（GAD）の適応追加を2025年中に申請する予定であると発表**した。同剤はセルトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤（SNRI）でうつ病、うつ状態を適応症として2015年に国内で承認されており、2021年にファイザーからヴィアトリスに承継されていた。

II. 「ケサンラ」、「レケンビ」同様の薬価対応
中医協薬価算定部会は日本イーライリリーの認知症治療薬「ケサンラ」に関して薬価算定方式や承認後の価格調整、費用対効果評価などに関して「レケンビ」と同様に扱うこととなった。部会内で両剤の臨床上の違いについては理解が示され、治療上の使い分けなどがあることも認識した上で、医薬品としての類似性は高く薬価算定方式を変えるほどではないと結論づけられた。

III. 科研製薬、創傷治療材料で独占契約
科研製薬は三洋化成工業と創傷治療材料「シルクエラスチン創傷用シート」の日本国内における独占的販売権に関する契約を締結した。同剤は三洋化成工業が承認申請を行った医療

材料であり人口タンパク質である。褥瘡治療薬「フィブラスト」など創傷分野の治療薬ラインナップがある科研製薬にとって同製品が加わることは領域でのプレゼンスのさらなる向上につながる。

IV. 第一三共、経鼻インフルエンザワクチン発売へ
第一三共は国内初の経鼻投与タイプのインフルエンザワクチン「フルミスト点鼻液」を発売した。同剤はアストラゼネカの子会社メディミュン社との間で日本における開発・販売に関するライセンス契約を締結している。噴霧タイプなので被接種者が自ら吸入する必要はない。2歳以上19歳未満用となっており、注射嫌いな大人は恩恵にあずかれないようだ。

V. オゾン・ファーマ「ディビゲル」承継
オリオン・ファーマは経皮吸収エストラジオール製剤「ディビゲル」に関して、日本国内で製造販売しているサンファーマから10月31日付で製造販売承認を承継すると発表した。同剤はフィンランドのオリオン社が創製した薬剤で2006年に当時のポーラファルマとの間で販売契約が締結されている。今回は、この契約を解消することで承継を実現させる。オリオン・ファーマの正式な自販開始日は明らかにされていない。

IV. 展望

I. 初歩的な仕事

コロナ禍、外食を控えるようになったタイミングで本格的な料理を趣味にし始めたのだが、それから4年が経ち家族の評判もそこそこになってきた。その一方で一つの大きな壁に突き当たっている。肉が上手く焼けないのだ。肉を焼くというのは非常に初歩的なもので、誰もが簡単に習得できる。しかし奥が深い。

食中毒を避けて安全に食べるというのであれば、中までしっかり火を通せばよい。しかし、肉は焼き過ぎると固くなるし、脂が逃げてパサパサになる。豚肉はほんのり桜色、牛肉やカモ肉、羊の肉は透明感のない赤くらいがちょうど良い焼き加減なのだ、そのちょうど良い焼き加減というのは一瞬で過ぎ去ってしまう。

肉の厚みや温度は一定ではなく、何分焼けばよい、と言った簡単な答えはないし、中がどのような状況になっているか、外側を目で見ても分からない。ほぼ唯一の手掛かりは肉を押しした際の手ごたえだ。中にはクシなどで肉の中心を刺してその温度を確かめる方法もあるが、何度もやるとその穴から肉汁が流れてしまう。

料理の中でも肉を焼くというのは誰にでもできる簡単な作業だ。しかし突き詰めようとするとも奥が深く完璧というところには至らない。赤ワインソースを作るとか、サラダ用のドレッシングを手作りするとか、いくつもの行程に分かれる複雑な作業の方が一見すると難しそうだが、実は誤

魔化しがきいて何とかなる場合が多い。

先日、外出中に入ってきた電話のメモが机の上にあった。ピンク色の付箋に相手と要件、日時と電話番号が書いてあるだけのものだが、白地の書類が多いデスクの上でさりげなく目立つ色合いだし、すぐ対応できないときに、ちょっと横に貼って置けるのも助かった。電話のメモと言えば、小さなメモ用紙をくれる人もいれば、裏紙を手ごろなサイズに切って置いてくれる人もいる。急ぎだったのか、ちぎられた紙があったこともあるが、ここにその人の心遣いが垣間見える。

料理と同様で仕事において実はこのような簡単な作業を掘り下げないままでいることが多いかもしれない。名刺交換、挨拶やお辞儀などの礼節、メールの書き方、尊敬語と謙譲語をしっかりと分けた言葉遣い、そのほかいろいろな基本があるだろう。それらが完璧でなくとも仕事は回るのだから悪いわけではない。

筆者の料理の話に戻るが、レンジとバターで鴨に合うソースを作れるようになったり、旬の食材でポタージュを作ったり、スープにちょっと味噌を入れてコクを出してみたり、ある程度いろいろできるようになったつもりでも、完成というには何かが足りないと感じる。それを紐解くと焼く、切るという基本中の基本がまだまだ未熟だったのだ。基本をおろそかにすると完成には至らないということなのだろう。(武田)

V. 市場動向レポート

I. 欠品問題

医薬品の供給不安が続いている。官民一体となって解消に向かって進んでいるのだろうが、事は単純ではなく長期化している。製薬企業側、医療機関・薬局側、それぞれがそれぞれの立場で苦労しているのが見て取れる。このような状態が長期化している自体、危機的な状況と言えよう。しかし、最近もっと大きな危機感を抱く事態があった。先日の米不足をきっかけに感じたのだが、**医薬品の欠品に世間は無関心すぎる**という事だ。

筆者は昭和生まれなので、平成の米騒動を知っているが、あれ以来 30 年ぶりくらいに米不足という言葉聞いた。幸い米騒動が始まる前に買った米で米騒動が収束する間を賄えて、その後は聞いたことがない名前の新米をビックリするほどの値段で買うことになったものの米がなくて困るという事態は避けられた。

筆者の周りでも米が手に入りにくいとか、あっても高いという話は聞くが米がなくなって食べられないという話は耳にしない。比較は難しいが**医薬品の供給不足と比べると軽微なレベルの不足状況**だったのではないかと思う。その程度の不足状況なのに連日報道されて、米不足を知らない日本人はほぼいない状態になっていた。

不足と言えば、災害などが発生するたびに買いだめされるトイレットペーパー

も同じだ。何かあるとすぐに買い占められて報道されて、でも少し経つと供給は安定する。この繰り返しのうちに、毎回報道されて、ちょっとした危機感をあおられる。少し前の話だが、コロナ禍で半導体不足になった際は自動車の納期が極端に遅くなった。自動車など頻繁に買う品物ではないにも関わらず大々的に報じられていた。

マリーアントワネットのようなことを言うが、米がなければパンを食べればよい。トイレットペーパーだって、洗浄便座があれば何とかならなくはない。自動車も同様だ。ところが医薬品はそうはいかない。欠品したときの影響はトイレットペーパーとは異なるのだ。しかしながら、トイレットペーパーが一瞬店頭から消えただけでも報道されるこの国で医薬品の欠品はニュースで報道されることはあまりない。たまに何かの特集などで掘り下げられることはある程度だ。そのため、**医薬品の供給不足を知っている人はあまり多くない**。

医療・医薬業界に身を置く人間にとっては身近で皆知っている話ではある。ところが、そこから一歩外に出ると、知らない人の方が圧倒的に多い。そしてメディアも報道する価値を見出していない。医薬品の供給が不安定であること自体も危機であるが、これだけの危機に対し世間全体つまり**世論が無関心であるという状況にも危機感を抱かざるを得ない**。(武田)

VI. 数字で見る医療提供体制（都道府県別医療機関数 24年8月）

都道府県別にみた施設数及び病床数									
令和6年8月末現在									
	施設数					病床数			
	病院	療養病床を有する病院 (再掲)	一般診療所	療養病床を有する一般診療所 (再掲)	歯科診療所	病院	療養病床 (再掲)	一般診療所	療養病床 (再掲)
全 国	8 062	3 340	105 162	434	66 390	1 470 192	268 589	72 674	4 133
01 北海道	524	214	3 403	22	2 699	88 496	18 146	4 690	236
02 青森	88	37	832	4	471	15 780	2 314	1 356	31
03 岩手	89	26	874	3	532	15 708	1 963	885	37
04 宮城	134	47	1 716	8	1 031	24 344	3 107	1 148	66
05 秋田	64	21	794	3	395	13 503	1 728	571	31
06 山形	66	22	878	2	447	13 620	2 039	423	21
07 福島	122	45	1 346	4	801	23 632	2 889	916	27
08 茨城	170	71	1 766	8	1 337	30 068	5 072	1 374	52
09 栃木	106	50	1 471	5	935	20 638	3 650	1 275	32
10 群馬	126	58	1 548	1	961	23 015	3 798	790	8
11 埼玉	339	120	4 579	2	3 503	62 761	10 930	2 311	29
12 千葉	288	118	3 985	4	3 177	59 391	10 930	1 789	28
13 東京	634	226	15 108	9	10 620	124 696	21 460	3 252	115
14 神奈川	332	124	7 245	8	4 894	72 844	12 882	2 031	122
15 新潟	117	33	1 649	2	1 079	24 975	3 002	540	38
16 富山	103	49	737	-	424	14 511	3 592	378	-
17 石川	88	34	879	2	467	16 339	2 932	770	16
18 福井	67	28	568	4	291	9 986	1 635	648	53
19 山梨	60	26	716	3	410	10 369	1 873	378	18
20 長野	120	47	1 583	6	972	22 118	2 832	726	58
21 岐阜	94	43	1 593	13	937	19 111	2 585	1 291	150
22 静岡	170	78	2 725	2	1 706	35 751	8 344	1 487	27
23 愛知	307	138	5 738	14	3 676	64 640	12 613	3 233	145
24 三重	92	46	1 479	10	771	18 922	3 441	826	126
25 滋賀	58	29	1 142	-	557	13 722	2 426	399	-
26 京都	160	46	2 488	2	1 244	31 689	3 340	600	25
27 大阪	501	205	8 955	3	5 381	102 877	19 634	1 858	20
28 兵庫	341	147	5 239	5	2 889	63 386	12 342	1 993	41
29 奈良	75	31	1 209	2	673	15 893	2 574	366	18
30 和歌山	83	33	996	8	498	12 369	1 868	644	76
31 鳥取	43	24	474	2	249	7 977	1 575	370	10
32 島根	46	23	681	1	248	9 583	1 646	363	9
33 岡山	158	66	1 529	19	960	26 392	3 679	1 575	209
34 広島	231	103	2 515	23	1 469	36 620	7 186	2 177	240
35 山口	138	72	1 185	6	612	23 791	6 998	1 150	54
36 徳島	103	53	680	10	402	13 083	3 155	1 189	69
37 香川	86	33	815	15	462	13 911	2 001	1 247	147
38 愛媛	134	67	1 152	7	627	19 969	4 215	1 701	68
39 高知	118	68	512	-	332	15 509	4 314	881	-
40 福岡	449	200	4 808	58	3 023	80 516	16 596	5 661	474
41 佐賀	95	49	688	25	390	14 006	3 650	1 784	217
42 長崎	144	65	1 296	16	679	24 804	5 639	2 634	156
43 熊本	200	89	1 457	20	823	31 697	6 682	3 420	179
44 大分	150	41	932	5	498	19 400	2 318	2 999	53
45 宮崎	129	51	897	16	473	17 719	2 875	1 943	132
46 鹿児島	229	107	1 361	48	766	31 195	6 454	3 912	432
47 沖縄	91	37	939	4	599	18 866	3 665	720	38